



**重松 孝治氏** 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科 講師

大阪教育大学教育学部障害児教育専攻卒業。同大学院修士課程修了。大阪府立の特別支援学校教諭を経て、2007年より川崎医療福祉大学・医療福祉学科講師。2014年より現職。滋賀では毎年支援者養成クラスルームの講師を務める。TEACCH®上級コンサルタント。

ASDの診断基準やその特性の基本を正しく抑えておくことが必要です。今回の講義ではその基本として、障害のとらえ方、特に重要な「学習スタイル」について、具体例を交えながら理解を深めます。



**中山 清司氏** 自閉症eサービス全国ネット代表 オフィスぼん代表社員

社会福祉法人横浜やまびこの里・京都市発達障害者支援センターを経て、現職に至る。

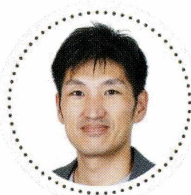
ASDの人の評価の具体的なやり方と、個別プログラムへの展開を、動画も交えて説明します。



**門 眞一郎氏** フリーランス児童精神科医

1973年京都大学医学部卒業、1981年から2017年まで京都市児童福祉センター勤務。ピラミッド・エデュケーショナル・コンサルタント社名誉コンサルタント。絵カード交換式コミュニケーション・システム・トレーニング・マニュアル監訳者。

ASDの人は通常のコミュニケーションに困難を抱えており、その支援には視覚的なコミュニケーション手段を使うことが欠かせません。中でも自発的な表出を教える方法として、エビデンスの確立している絵カード交換式コミュニケーション・システム (PECS®) について紹介します。



**松尾 浩久氏** 特定非営利活動法人HEROES理事長

行動障害といわれる方が地域で多様な生活を送る支援モデルを目指し特定非営利活動法人HEROESを設立する。公認心理師、社会福祉士、介護福祉士などの資格を保有し、福祉職や自閉症支援のスーパーバイザー、強度行動障害支援者養成研修、サービス管理責任者等研修などの講師も務める。

事業所外の社会福祉士や医師などからスーパービジョン（コンサルテーション）を受けHEROESの支援は日々ブラッシュアップしています。単なる問題行動への対処ではなく、自閉スペクトラム症の方が地域で生活する支援について、支援の始め方、支援技術の向上などに関して、現場実践をもとにお話しします。



**明石 洋子氏** 社会福祉法人あおぞら共生会 副理事長  
NPO法人かわさき障がい者権利擁護センター 副理事長

知的障害を持つ自閉症の長男（547年生）の成長に合わせて「地域で共に生きる」を実践。働く場も地域で、さらに親亡き後の支援を実現するために「あおぞら共生会」を平成元年に設立し、現在13事業を展開している。

1. 「地域で生きる」を実践して49年（人権尊重）
2. 「地域で生きる」のリスク（成年後見制度の必要性和課題）
3. 成年後見制度を利用するために不可欠なもの（意思決定支援・合理的配慮・市民への啓発活動等）



**NPO法人滋賀自閉症研究会たんぼぼ**

<https://npotanpopo.jimdofree.com/>



NPO法人滋賀自閉症研究会たんぼぼは「自閉スペクトラム症児・者が、必要な時に適切な援助を受け、普通に地域で生き活きと暮らせる滋賀」を目指して活動しています。自閉スペクトラム症の正しい知識の啓発や適切な療育の提供に関するさまざまな事業を行っています。